てんかん考える 市民フォーラム

東区で300人参加

市民フォーラム「てんかんを考える」（中国新聞社主催）が17日、広島市東区の県医師会館であり、患者や家族たち約300人が参加した＝写真。

てんかんは脳神経細胞の過剰な興奮で、けいれんなどを起こす疾患。広島大病院てんかんセンター（南区）の石川暢恒副センター長(46)は「基本の治療は薬の内服。小児期に発症した場合、7～8割は完治する」と解説。飯田幸治センター長(54)は、難治性の場合の手術を紹介した。

ラグビートップリーグの三菱重工相模原ダイナボアーズ主将土佐誠選手(33)＝尾道高出身＝は自身の体験を語り「家族や仲間としっかりコミュニケーションを取ることで精神的な悩みを乗り越えられ、プレーを続けられた」と振り返った。

フォーラムは2010年に始まり、ことしで10回目。

中国新聞の許諾を得ています
掲載日付 2019 年 11 月 18 日